

ばってん

事務長会報第51号

令和4年3月31日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎南高等学校内

〒850-0834

長崎市上小島4-13-1

電話 (095) 824-3134

「不易と流行」

広報部長（島原高等学校）石橋 明

退職まであと2年（定年延長なら3年）となり、退職後のことをよく考えるようになった今日この頃、自分の老後のためにコツコツと貯めてきたつもりの蓄えが、見る見るうちに子どもの教育費として飛んでいってしまう現実に直面し、何の仕事もせず自由気ままに過ごす生活を夢見ていた私は、最近少し憂鬱な毎日を送っている。また一方で、残された現役生活を悔いの残らない充実した毎日とするため、「できることはすべてやる」の精神で日々の業務にあたっている。

私は、現在、島原高校でお世話になっているが、引継ぎの時に一番驚いたことは、10年ほど前に噂に聞いたことがあった事務長と剣道部による校門周辺の早朝清掃が続いていたことだった。親の介護をしながら遠距離通勤することになった私は、前前前事務長から3代続いている慣習を私の代で途絶えさせていいのか随分悩んだが、これも働き方改革などと理由にならない理由であさり止めてしまった。今も剣道部の生徒たちは早朝清掃を続けてくれているが、美しい校門周辺を見るたびに私は心苦しくなるのである。

島原高校で前事務長から引き継いだもう一つの案件が制服の見直しである。特に女子の夏服（水色のジャンパースカート）は、「古臭くてダサイ」「通気性が悪く暑い」「汗染みが目立つ」などの理由から全生徒の約7割が「嫌い」というアンケート結果もあり、120周年を契機に流行に乗ったおしゃれな制服へ変更する計画があった。しかし、いざ具体的な検討を始めると、現在の女子の夏服

が昭和31年に普通科の単独校となった際に制定されたもので、長年の間、生徒たちは自分の制服を家庭科の授業で制作していたこと、当時はその斬新なスタイルと色合いが清楚でかわいいと評判だったこと、夏休みに修学旅行を行っていた頃は、女子はその時だけ夏服に麦わら帽子をかぶり、お嬢様のような姿が訪問先で大好評だったことなど、数多くのエピソードが寄せられた。そして、強い愛着を持つOGからの変えないでほしいの声や、生徒からの歴史と伝統を継承すべきではないかとの意見が出てきて、計画はいつの間にか自然消滅してしまったが、生徒の中では今でも制服論争がくすぶり続けている。私個人としては、女子制服にスラックスを導入したいのだが……。

「不易と流行」これは、制服の見直し検討の中でOGである職員から出てきた言葉である。知識の無い私はすぐスマホで検索してみたが、「不易と流行」とは、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅をする中で体得した概念だと言われており、「不易」はいくら世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけぬもの、「流行」とは世の中の変化とともに変わっていくものという意味だそうである。学校現場でも教職員の働き方改革が叫ばれる中、固定観念を打ち破った思い切った改革が必要なことは理解しているが、一方で学校には変えてはいけぬものがたくさんあることも事実だと思う。私たち管理職は、その観点をしっかり持ったうえで、改革案に対する判断を下していく必要があるのではないだろうか。



先般の事務長会理事会の中で、この「ばってん」について議論があり、理事からは不要論も出る中で広報部長として一応反論させていただいた。私個人としては「ばってん」にそれほど強い思い入れがあるわけではないのだが、四半世紀以上続いてきた歴史とそのため諸先輩方の苦勞も十分考慮しながら、事務長会として熟考したうえで判断を下してほしいと願っている。

雨を喜び、風を楽しむ

諫早高等学校 竹中 望

定年最後の年は、夫婦で京都の紅葉の散策でもとっていましたが、新型コロナや、諫早高校の晩秋は全国高校駅伝の募金関係で、多忙な時期で、先延ばしとしました。そして、駅伝部は2年ぶりの入賞（8位）となり、感動しました！

1985年、南串山養護でスタートし、卒業生が答辞で「この3年間は、一生の思い出になりました」と述べられ、その「一生」という言葉が、ずっと心に残り、健康で元気なら、「頑張ろう」という気持ちで、これまで仕事に向き合ってきました。

1995年、教職員課に職員班（現職員免許班）ができ、「定数、免許、研修、団体交渉、サービス」など、多くの業務に対して、班員4人という厳しい体制でした。平日は23時頃まで、節分から七夕までは、ほぼ休みなしという日々でしたけど、この時、仕事のコツが身についたと思っています。「期限から逆算し、段取りと仕込みを考え、すき間を活用し、最後は気持ちが一番大事」など、試練によって、人は鍛えられ、雨や風もプレゼントになることを学びました。ふりかえると、この厳しかった時期が、良い思い出になっていることも不思議な気がします。

2000年、財務課（現教育環境整備課）で、会計検査担当の時、検査が入り、「気になる施設があるので休みの日に現場に行こう」となり、「ああだ、こうだ」と現地で意見をぶつけ合い、検査も大変でしたが、無事に乗りきりました。その時の良き相棒は、当時はもう異動していて、同じ職場ではなかったのですが、大変頼りになり、助けてもらいました。彼は、その後ちょっと入院しますとなり、見舞いに行った時、「元気になったら、また頑張りますよ」と笑顔でさわやかに言った後、40代前半の若さで亡くなりました。「ばってん」が口癖で、明るくまじめで惜しい人材で、涙、涙でした。一緒に仕事をしたのは、わずか1年でしたが、いい仕事ができていると思います。「大きな病気をせずに、生活や仕事が普通にできることは、当たり前のことではない。たいていのことは、命のことを考えたらいしたことはないです」と、彼から教えてもらいました。

そして、いよいよ、37年目の最後の年も千秋楽が近づいてまいりました。多くの方にお世話になり、本当にありがとうございました。

※ 諫早高校が誇る遺産「御書院などの風景の写真」は、スマホ等で見ていただければありがたいです。

(blog.goo.ne.jp/jimu3333)



挑戦することの大切さ

佐世保商業高等学校 平川 美知子

佐世保商業高校事務長として内示を受けた日の翌日は土曜日だったので、どんな学校か視察に行きました。急な坂道（傾斜何度？）と、校内にバス停があることに驚き、木々も多く、人員減・予算減の今、環境整備は大変だろうなと思いつつ帰りました。

事務長引継ぎ時には令和5年度に創立100周年を迎える伝統のある学校であることと、体育館内部改修・パソコン室改修・エレベータ新設工事と漏水を知りました。大変な学校の、それも事務長になったと悩みました。でも、異動の新聞記事を見てすぐに退職事務長先生より栄転のお祝いの言葉等を頂きました。とても嬉しく、がんばらばと思いました。ありがとうございました。

私は、諫農・大村・沓岐・諫早高校時に周年行事を経験し、工事事務担当初の大規模工事が「体育館内外改修工事」。周年行事と工事の縁で佐世保商業高校勤務。今度は事務長の立場で仕事をすることが決まっていたのか

もです。

コロナ禍で、行事での来賓案内（接待苦手）、PTA書面決議、飲み会の万斉三唱（事務長の役目？）等、事務長らしい仕事はしないまま、成長しないまま、1年目の事務長生活が終わろうとしています。コロナが落ち着けば、普通の事務に戻るのではなく、書面決議等、事務の効率化・簡素化等は続いて欲しいです。

佐世保商業生は多くの資格を取得して卒業します。卒業後すぐに上級資格（公認会計士等）に合格する生徒もいます。スピーチコンテスト等で優秀な成績を残します。企業との協働事業（商品開発）もスタートしました。今年の目標は生徒さんを見習い、何か資格をとることです。タイトルの通り、何かに挑戦することの大切さを学んだ1年でした。



鶴南特別支援学校に赴任して

鶴南特別支援学校 堀川 智史

鶴南特別支援学校は、旧三和養護学校と旧平山養護学校を起源に、平成3年4月に平山養護学校から鶴南養護学校に校名変更、平成22年4月に現在の学校名に校名変更され、今年度創立30周年を迎えました。また、平成27年4月には分教室が時津分校と五島分校になり、平成28年4月には西彼杵分教室が開設され、本校、2分校、1分教室で「鶴南グループ」として知的障害を持つ子供たちに教育活動を行っています。

本校は、長崎市南部の平山台団地の隣に位置し、校門からは世界遺産である軍艦島が見え、3方向を森に囲まれています。夏にはハチアブマグナムジェットを両手に持ってスズメバチと闘ったり、時にはイノシシやアナグマが運動場を駆け回ったりしますが、春には桜が咲き、秋には紅葉が見られる心が落ち着く素晴らしい環境の中にあります。

さて、事務長となり9か月が経過しました。今でこそ子供たちと挨拶をしたり、行事で応援をしたり、子供たちの笑顔を見て元気を貰っているのですが、赴任当初を思い起こすと、4月は大変だったなというのが一番の印象です。4回もある入学式に出席する中、217名の住所

録と15名の顔写真の作成に追われていました。本校、時津分校が終わり、五島分校まで来ると「あと少しだ」と自分を励ましなが、久しぶりの午前様の日々を送った4月が懐かしくもあり、また来るのかと憂鬱でもあります。学校勤務は9年ぶり、県立学校の勤務歴は3年であり、自分の知識不足を痛感するとともにいつも何かの問題を抱えており、当初の目標だった「明るい事務室を作ること」までほとんど手が届いていませんが、次年度こそは1年間の経験と気合いで、目標を達成できるよう頑張っていきたいと思っています。これからも事務長会の皆様方には多々お世話になるかと思いますが、今後ともどうか見捨てずにご指導いただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新任事務長として

豊玉高等学校 大久保 慎也

豊玉高校は、昭和25年対馬高校の定時制分校として開校し、昭和48年に独立しました。その間、約4,400人の卒業生を輩出していますが、現在は全校生徒数56名、職員も20名弱の小規模な学校となっています。

令和5年度には50周年を迎えますが、本校独自の取り組みとして、平成24年度にPTAをPTCA(CはCommunityのC)と改称し、同時に豊玉高校支援会議をたちあげ、地域の方々にも学校活動に参画してもらっています。また



ふるさと教育の一環として、令和2年度から和多都美神社の古式大祭「舟グロー」の復活にも取り組んでいます。これについては、広報つしまの10月号で特集されています。対馬市のホームページからご覧になれますので、是非ご一読ください。

さて新任事務長として、怒涛の4、5月を具申やら叙勲やら親展やらのわからない仕事たちと格闘し、ようやく終わったと思ったら、研修や会議の連続で、頭の中がバンク状態でしたが、わからないことは先輩事務長さん方にお聞きし、助けられながらどうかこうにかのりきり、はや一年が過ぎようとしています。事務職員のときに、平成17年度のばってんに寄稿させていただいたことがあります。このときはまだ30代前半だったため、事務長なんて遠い未来の話と思っており、いざ自分が事務長になってみると、もうそんな年なのだ一気に老けこんだ思いと、また新しい気持ちで頑張ろうという思いが入り混じり、複雑な心境でもあります。

これまでご指導いただきました事務長さん方に感謝申し上げますとともに、これからもまた引き続きよろしくお世話いたします。そして今年度退職される事務長さん方、本当に長い間お疲れさまでした。ありがとうございました。

お世話になりました

大村工業高等学校 井村 義昭

早いもので、この3月末をもって定年退職を迎えることになりました。昭和59年3月に大学を卒業し、その4月に学校事務職員として採用され、学校勤務を20年、教育委員会事務局(教育機関を含む)を18年と合計38年間の務めを終えようとしています。この間、13か所の職場に勤務し、そのうち4か所は縁あって2回勤務(ろう・上五島高・教職員課・教育センター)することになりました。今、こうやって退職を迎えられるのも先輩・同期・後輩の同僚に助けられてきたお陰だと大変感謝しています。

採用当初は学校事務とはどのようなものかも分からず、根拠・法令と言われても「何のこっちゃ」と思いながらも先輩事務職員の皆さんから、「こげんせんばとよ」とか「そいではだめばい」とか温かい声かけをしていただいたことで、どうにか途中下車もせず終着駅に到着することができそうです。

可能であれば、退職校は初任校の学校でと思っています

したが、さすがにそこで退職することは叶いませんでした。しかしながら、新校舎移転に携わったことはいい思い出になりました(1か月の病休で回りにはとても迷惑をかけたのですけど)。また、再び手話との出会いもあり、手話の勉強を始めましたので、退職後はさらに精進したいと思っています。

今、学校も働き方改革でいろいろな策が講じられているようですが、それ以上に事務処理が煩雑・細かくなり気の抜けない状況に思えます。新型コロナも次から次へと変異株が出てきてなかなか終息に向かわず、職員・生徒皆がマスクを外した顔を見ずに退職しそうです。皆様も体調には十分留意され、お過ごしください。

「お世話になりました。お元気で」

※ 似顔絵は、2回目の上五島高校時代に文化祭での似顔絵コンクールで生徒が描いてくれたものです。



事務長さんとの思い出

長崎県高等学校体育連盟 会長 後藤 慶太
長崎県立長崎南高等学校 校長

このたび、長崎県公立学校事務長会の会報「ばってん」の原稿依頼を受け、大変、光栄ではあるものの、文才に欠ける私にとっては、何を執筆しようかと悩む日が続きました。この3月に定年退職を迎える私にとって、これまで赴任した学校で、多くの事務長さんに育てられ、助けられたりとしたものですから、何か恩返しにしなければならぬという思いで、事務長さんとの思い出を書かせていただきます。

初任の島地区の学校では、T事務長さん。住まいも近く、独身であったため、奥様の手料理をいただいたり、魚釣りを教えていただいたりしました。当時の給与は現金支給でしたので、1,000円以下は、端数貯金でした。貯蓄感覚に乏しい私に、10,000円以下を端数貯金とすることを指導されました。その結果、その預金が、転勤する時の唯一の貯金となりましたので、非常に助かりました。

2校目の半島部の学校では、S事務長さん。旧〇〇藩の家老の末裔であり、長崎学に精通され、長崎の歴史や文化をわかりやすく教えていただきました。事務室関係のお仕事を手伝ったりすると、自宅で取れた野菜などのご褒美をいただいたりもしました。

3校目の都市部の学校では、Y事務長さんとA事務長さん。Y事務長さんは、無骨なお人柄で、武士みたいな方でしたが、私とは馬が合い、非常に可愛がられました。当時、県高体連事務局の会計を担当していましたので、会計のあり方、補助金の考え方、旅費や給与の算出など、様々なことを学ばせていただきました。また、バスケットボール部の顧問で、全国大会にも何度か出場しました。大会によっては、主催者から旅費の補助金が支給されることもありました。私は、支給された封筒を封も切らずに、そのまま、手渡しました。そのことを大変喜ばれ、「今まで、顧問からこのような形で、補助金をもらったことはない」と言われ、今後、全国に出場する際は、全面的に支援するから、「頑張り」と言われました。A事務長さんも、昔気質で、物事をはっきりと言う方でしたが、私やバスケットボール部を非常に可愛がってくだされ、退職後も、「生徒たちに、猪の肉を食べさせて強くなれ」といって、郷里から大量の肉を送っていただきました。

ここからは、現役の事務長さんで、お世話になった方です。Kさんには、バスケットボールのルールが変わり、ラインを引き換えるところ、追加してコートペイントまでお願いし、素晴らしいバスケットボールコートができあがりました。Oさんには、危機管理が必要な時に、フットワークよく、素早くて確な対応をしていただき、業務をこなすことができました。

まだまだ、多くの事務長さんたちから、可愛がられ、育てられ、様々なことを学んできた私ですが、現役の事務長さんたちをお願いしたいことがあります。それは、事務職員を指導することは当然ですが、教員を指導することも心がけてほしいと思います。教員は、お金や会計に関することに無頓着で、物品の一つを購入する手間や手続きも余り理解していないと思います。また、「先生」と呼ばれることが多く、ややもすると学校の常識が世間の常識と勘違いする教員もいます。1円のミスも許されないことや物事には根拠が必要であることなどを事務長さんからの指導により、教員は成長すると思います。どうか、よろしくお願いいたします。



編集後記

「頼まれた仕事は断らない」採用同期の〇〇事務長さんはじめ、執筆を快く引き受けていただいた皆様にお礼を申し上げます。お陰様で、校了を迎えることができました。

また、後藤校長先生、ご退職される会員の方々には、長年本県の教育を支えていただき感謝いたしま

す。皆様の次のステージが実りあるものとなることを祈念いたします。

地区事務長会で「ばってん」の編集は大変だろうとの話がでたので、「原稿は執筆者に書いていただくので大丈夫。」とお答えしました。後記のことはまったく頭にありませんでした(泣)。

(T・H)